

Title	毒物とテリアカに関するシャーナークの書(二)
Sub Title	The book of Shanaq on Poisons and Theriacs (II)
Author	稲葉, 隆政(Inaba, Takamasa)
Publisher	三田史学会
Publication year	1987
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.57, No.1 (1987. 5) ,p.107- 134
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19870500-0107

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

毒物とテリア力に関するシャーナークの書(二)

稻葉 隆政 訳註

賢人シャーナークの書の第一章

慈悲ふかく慈愛あまねき神の御名に於いて

シャーナーク曰く。さて、高きにおわす神の御意に適えば、我々が述べる食物や飲物やその他のもののうち、毒入りのものの徵候について御伝えしよう。

以下に我々が述べるそれ等の毒物に関して言えば、それ等は、様々な種類の食物すべて、即ち生のものや焼かれたものや風味と香りの良いものから、また飲物では、水や麦酒やミルクや麦粥や絞り果汁や果実菓子やその他の飲物から、また樹脂やハルーカ⁽¹⁾香やラフラハ⁽²⁾香やザリーラ⁽³⁾香やガーリヤ⁽⁴⁾香や龍涎香や香油のような各種の香料から、また頭髪や顎髭のグリースやアンティモニー製の

クフル墨から、また洗眼薬やザルール粉や、顔や身体の皮膚を浄化したり清潔にしたりするために用いられる軟膏や、うすべにたちあおいや苛性カリ、「を調合した洗浄水」のような頭髪とか顎髭とか身体とか手とか胴体とかの洗浄水や、風呂のなかで人がそれを用いて「身体を」擦るものから、また木綿や亜麻や海狸の毛や絹や羊毛や駱駝の毛製の衣類から、そしてまた敷布団やベッドカバーや枕やクツションや頭巾やターバンや帽子やストッキングや靴やサンダルから検出されるのである。

インドの古の或る賢人は次のように伝えている。賢人達は生まれたばかりの女児を毒物で養う。すると毒物が彼女の身體と融和する。従つて、彼女と性交した者は誰でも死ぬ。もしも高きにおわす神の御意に適えば、我々は我々の書物の最後でこのことについて述べるのである

う。

毒入りの食物の徵候。調理される食物のうち毒入りのものの徵候に関して言えば、それが仕上がりまた調理される前に、その状況に、その食物の正常で安全な諸徵候の代りに、容器のなかで溶解しにくつたり、沸騰しにくつたり、圧搾しにくつたりする〔徵候〕が現われる。

調理された後の毒入りの食物の徵候は、短時間での変質及び匂いの変化、急速な冷却化、熱の消滅、色と形の悪化である。また毒入りの食物には孔雀の羽根の光輪のような光輪、或いはきらきら光り輝く星のような光輪が生じる。

食欲を生じさせ、「原文一語判読不能」、そして多食を誘発するものに属する乾肉や乾燥果実や焼肉や揚物のよ

うな乾物の徵候。乾肉には、埃やごみを含む煙のようなものが立のぼる。乾燥果実には、緑色と青色がかつた蜘蛛の巣のようなものが生じる。焼肉には、黄色と緑色がかつた水がしみ出る。しばらくの間放置されると悪臭を放つようになる。揚物及びディーケバルディーク⁽⁶⁾には、埃が発生する。それ等を注意深く観察すると、色がそれ等の本来の色とは掛離れた醜惡な色に変るか或いはまた

非常に極端に異様な色に変ると同時に、細かい石鹼の泡のような泡をそれ等のなかに見出すことができる。

水やミルクや各種ジュースを用いて煮られた湿った食物の徵候。その徵候は泡やあぶくが多いこと、糸や紐の線のように立ちのぼりながらその食物のなかに現われる筋及び異様なもの、凝固及び硬化が速いこと、変質、汚ならしくなること、及び醜惡になることである。またもしもその食物の外観がその正常な状態にないとしたら、即ちもしもその食物が美し過ぎるならば、或いはまた白が変化して黒味がかつたり、黒が変化して白味がかつたり、外観の大部分が黒と白の斑になつたりするといふことによって、その食物が一般に容認されている状態とは異なつてゐるならば、そのような外観の大多数が様々な徵候のうちの一つに加えられるのである。

毒入りの食物の徵候。手を触ることによって毒入りの食物を検査すると、灼熱感を生じたり、爪にしみがついたり、指が腫上がつたりする。毒入りの食物を味わつたり、それが口に触れたりすると次のようなことが生じるし、またそれを食べた人に起ることは次のようなことである・唾液の流出、口唇の蟻走感、口中及び舌の灼熱感、疼痛、重苦しさ、動かしたり堅く噛んだりするこどが出来ぬほど臼歯の腫脹、臼歯の蟻走感、辛さ及び甘さに対する味覚喪失、及びそれ等に対する味覚欠除。

毒入りの食物が胃に達すると次のようなことが起こる・

発汗、眩暈、気絶、嘔吐、色の変化、腫脹、震え、灼熱感、眼痛、視力減退、四肢の脱臼、心臓圧迫、及び身体に発生するダバーバ⁽⁷⁾に似た吹出物。毒入りの食物が下腹に達した場合の症候・気絶、灼熱感、渴き、下痢、腹痛、排泄物が出ないのに腹のなかで激しくごろごろ鳴る音、催眠、精神不安、精神動搖、体力消滅、身体の涸び、色が黒ずむこと。そしてこれ等の症候と共に死が訪れる。

毒入りの食物に対する火の徵候。毒入りの食物が火中に投じられると、火は明るく輝いて一飛び飛び跳ね、火の音と唸りが一段と激しくなり、そして火の吐出〔音〕が、一塊りの塩や湿った枝を火中に投じた時の火の音と

同じになる。また一方で、デイルハム貨幣のような円い形の渦巻が火中に発生する。火の色は虹の色のような色と混ざつて緑色になる。立のぼる炎の舌は黒ずんだ色合となり弱々しくなる。

煙の匂いは燃やされる死人の臭いと同じである。その煙を浴びたり臭いを嗅いだりした者に、発汗、震え、鼻炎、頭痛、幻覚、眩暈、及び物をその形通りに見ることができぬ視界の不明瞭さが生じる。火焚人夫を使って、有毒の火が起こすことと同じことがその者に生じるまで、毒入りの食物の光と色に気をつけるのである。

毒入りの飲物の徵候。水の徵候〔に関して言えば〕、水には黒色がかつたオリーブ・オイルの色のような筋が生じる。たとえそれが如何なる麦酒であっても、黒っぽい薫色がかつた霞が麦酒に生じる。生のままのミルク及び凝固乳には緑色の筋が生じる。薄い脱脂乳には黄色がかつた空の色のような筋が生じる。乳漬にはじゆずかけばとの色のような疊りが生じる。バターには赤い色合が現われる。柔らかいチーズも同様である。

麦粥、絞り果汁、果実菓子の徵候。麦粥は、水で湿らされると、そこに紫色がかつた濁りが生じる。粥の類はすべてこれと同じである。酢、及び酸味のあるものや調

味料に属する酢と似たようなものには、黒みがかつた鈍い鳶色の曇りと一緒に黒い筋が現われる。料理用バターには空の色のような筋が生じる。蜜にはふだん草の色のような「筋」が生じる。薔薇水には黒色の濁りが生じる。酢蜜も同様である。また同様に絞り果汁のすべて及び砂糖や蜜を加えられた果実菓子のすべてにも黒い濁りが生じる。或いはそれ等を搔交ぜると、「原文一語判読不能」。毒入りの食用油の徵候。オリーブ・オイルには日の出の時の太陽の色のような薔薇色の筋が生じ、その匂いが脂肉の匂いのようになる。アーモンドの油には緑色がかったオリーブ・オイルの色のようなぼんやりとした筋が生じる。胡桃の油には黒色がかつたぼんやりとした筋が生じる。胡麻油には埃色の濁りが生じ、匂いが悪くなる。

毒入り果実の徵候。その果実が新鮮なものであるならば、しばらくの間放置されると、成熟する。その果実が熟したものであるならば、しばらくの間放置されると、悪臭を放ち、腐敗する。もしもその果実が柘榴や柘榴類のように堅い外皮を持つものに属しているならば、しばらくの間放置されると、その外皮が乾燥し涸びる。もしそれが胡桃やアーモンドやヘイゼル・ナッツやピスタ

チオやストーン・パインやココナッツのような果実であつて外皮を剥がれたものであるならば、それ等は柔らかくなつて湿氣を帶び、そして色が変化して褪せる。

身体に接触するシャツ、ズボン、ターバン、帽子、スリッキング、頭巾、敷布団、ベッドカバー、座布団、枕、肘掛けクッション、クッション、敷布、ベール、及びその他衣類のようないきもの、木綿、亜麻、絹、羊毛、海狸の毛、及び駱駝の毛製の身につけたり広げたりするものの徵候「に關して言え巴」、それ等に黒ずんだ色合の薄汚ない斑点が生じる。放置されると、匂いが変化しそして織り糸がぼろぼろになる。

それ等のうちたとえ如何なるものが身体に触れたとしても、激しく焼けるような感じの疥癬と連続的発汗が身体に生じる。身体が発汗する度ごとに、疥癬が発汗によつて更に激しくなり、遂には疥癬の箇所が腫上がり潰瘍化し、身体の肉が次第に落ちて行き、悪性の病が身体に生じるまでに至る。治療を続行しなければその人は死ぬ。

衣類に用いられる駱駝の毛や山羊の毛や羽毛に關しては、状況に応じて「更に幾つかの徵候が」付加される。つまり、それ等は抜落ち、脱落し、そしてなおその上に

消散するということである。従つて、常にそういうことを調べることが必要である。

各種の毒入りの香料の特徴。各種の毒入りの香料とは、樹脂、ハルーケ香、ラフラハ香、ザリーラ香、龍涎香、及び香油の如きものである。白檀や薔薇の樹脂、ラフラハ香、及びザリーラ香は、これ等の正常な状態がこれ等の「正常な」色とは別の色に変化するということによつて、一般に容認されているこれ等の状態とは異なっている。そして被害者に皮膚の灼熱感、発汗、皮膚の荒れ、湿疹が生じ、また身体に大きな潰瘍が発生する。

ガーリヤ香に関して言えば、顔面に炎症、眼に視界不明瞭、耳に碾白のような雜音、脳と眼に重苦しさ、及びその他同種の事「が生じる」。

沈香やナゾド香⁽⁸⁾やその他の香料から生じる香煙の徵候に関して言えば、それ等の香煙の色が緑色及び紫色になり、また香煙は動きが速くなる。「その香煙を浴びた」人に意識喪失、身体全体のほてり、及び呼吸困難が生じ、また邪悪な思考がその人の心に生じてくる。

グリースでつくられた軟膏や頭髪及び顎髭のグリースの徵候「に関して言えば」、グリースの色がその通常の色とは異なっている。注意深くそれを見るとその通常の

色とは異なった赤みがかつた筋を見ることができるであろう。それを塗られた人に、頭部の毛穴が詰まつたり、毛髪が抜け落ちたり、毛髪が台無しになつたりすることが起ころ。また時として顔が腫上がつたり、膿漿を噴く毛穴が顔のなかに現われたりする。

グリースでつくられた身体用の軟膏の徵候。毒入りのグリースはその通常の状態からどんよりした色に変化するということを我々は既に述べた。そして被害者に皮膚の灼熱感、発汗、皮膚の荒れ、湿疹が生じ、また恰もフェルトのように黒みがかつた灰色をした堅い潰瘍が発生する。治療を続行しなければその人は死ぬ。

脱毛剤や両脇の下の塗布剤のよう、塗りこむものの徵候「に関して言えば」、脇の下に塗りこむものが黒ずんだ栗毛色になるということが起ころ。またそのなかにあぶくに似たようなものが発生する。脱毛剤に関して言えば、そのなかに虹の色のような色が生じる。そして被害者に胃の灼熱感、意識喪失、発汗が生じる。次いで、黒い汁を滲み出す恰もディルハム貨幣のような「形の」潰瘍がその身体に発生する。治療を施さなければその人は直ちに死ぬ。

頭部及び顎髭の洗浄水の徵候「に関して言えば」、筋

のような黄色の色合いをしたもののがうすべにたちあおい「を調合した洗浄水」に生じる。そして被害者に、頭部のほてりや炎症及び顔面全体の真赤な腫脹が生じる。なおその上、もしも治療を施さなければ顔面の肉が裂けれる。なおまた、手の洗浄水に関しては、被害者に、手のひどいむずがゆさや炎熱焼けつくような感じが生じる。

また掌「の皮膚」や指「の皮膚」が剥がれ、そして「体液が」水気を含む血液となつて滲み出る。もしも治療を施さなければその人は衰弱する。

皮膚浄化用軟膏、及び顔面用塗布剤一切の徵候「に關して言え」ば、それ等の色や形が個々に変化する。そして、それ等を用いる人に、その色合のうちに緑がかつた色合をもつ黒ずんだものが生じる。更に、その人の顔面に、ざらざらした感触の、湿疹のような斑点が現われ、それからすぐその斑点は大きくなる。なおその上に、「体液が」滲み出始め、そして膿漿となつて溢れ出る。もしも治療を施さなければその人は死ぬ。

クフル墨及びザルール粉の徵候「に關して言え」ば、そ

なたはそれが、恰もそこに雲状のものが存在するかのようになつてゐるのを見ることができ。そして、それを用いる人に、眼の赤化と眼の灼熱感と角膜白斑「の発生」

に伴う涙の連續的溢出が生じる。それから、その人の「視界が」暗くなり、その人は何も見ることができなくなる。

毒入りの食物を食べたり或いはまた毒入りの飲物を飲んだりした人の一般的症候「は次の通りである」。最初の症候はその人の顔がしかめ面になることである。「次いで現われる症候は」顔色の緑化、心が弛緩してだらし無くなること、茫然自失、身震い、発汗、倦怠と氣落ちに伴いあちこちに向つてよろめき歩いたりぐるぐる回ったりすること、笑う「理由も」無しに時ならぬ時に笑うこと、側にあるものに身を隠したり人目を避けたりすること、指をぱちんと鳴らしたり手を叩いたりすること、地面に引く何本かの線、頭部のむずがゆさ、たびたび立上がりたり伸びをしたりすること、側に居る人にもたれかかること、醉払いのような足取りで転んだり躓いたりすること、譖言を言うこと、精神錯乱、正当な事柄に逆らうこと、自分の居る場所をひどく嫌いその場所から移動することである。

これ等の事柄はすべて、原因として、遲効性の毒物の存在を他の人達に示唆しているのである。時としてこれらの状態は一緒に現われる。また、その外観がうわべだ

けの見せかけであつたり秘密を内に隠している男女の縁者及び男女の召使で、これ等の挙動を告げられた者達のうち疑わしい不審な者達に、これ等の状態の大部分が現われる。それは、彼等が脅え彼等の罪が罰せられるのを恐れる故である。

我々は、我々が企てたこと、即ち我々が述べた様々な毒入りのものの諸徵候を明らかにすること、を完了した。

次に、我々は、我々が記述したそれ等のものは如何なる風に毒を入れられるのか、それ等のものは如何なる毒物を用いて有毒化されるのか、それ等の毒のうちそれをこうむるに伴い誰も生き残ることがないものは何か、毒の程度と時間の多少の度合に応じて毒を抑えるために毒の効力発生を遅延させるものは何か、毒物各々の治療は如何なる方法でなされるのか、毒物のうちそれに対する治療法の無いものは何か、毒物各々の害を除去する万能の薬剤は何か、について述べるであろう。神のうちにしか力は存在しないのである。

有毒の少女に関して言えば、そのような少女「の毒」に対する治療薬は存在しないので、少女「の毒」から回復するにはその少女に近づかぬようにしてある。

しかし、このようなことは既に絶えてしまつた事柄に属しており、過去に存在した事柄でしがないのである。我々にはこのようなことに関して経験が無い。第一章終了。

註

(1) 主として女性が用いる香料。サフランを基として合成される。

(2) 各種の芳香性原料から合成される香料。

(3) *calamus aromaticus* の粒子。香料。

(4) 蘆香、龍涎香、樟脑、及びアラビア、インドに産するわさびの木の種子から採った油から合成される香料。

(5) 眼病に罹った眼のなか、或いはその他身体にできた傷の上に振掛けられる粉末薬剤。

(6) ペルシャ語で、原義は「鍋の上の鍋」。此所では、この語を如何なる意味で用いているのが不明である。

(7) 駱駝の胸部にできる腫脹。

(8) 沈香、龍涎香、麝香、及び乳香から合成される香料。

賢人シャーナークの書の第一章

慈悲ふかく慈愛あまねき神の御名に於いて
賢人シャーナーク曰く。

さて、我々は、毒物について述べること、即ち我々が述べた様々なものが如何なる風に毒を入れられるのかと

いうこと、から始める。そしてそれを済ませた後、我々は、神の思召と御恵みによつて毒を除去しそして毒に対抗するものを用いて、毒物それぞれを処置する方法を述べる。

先ず初めに、我々は食物と飲物について述べることから始め、それからそれに続くものについて述べる。そしてまた我々は、そういうものが一般民衆の間に広まらぬよう我々が薬剤と呼称する毒物個々についての記述を行う。

薬剤..スヌーニヤというのは燕の一種なのであるが、これはそのスヌーニヤの雛から採られる。雛が死ぬまで雛を蝮に咬ませよ。それから赤銅の板が雛に密着して両側に据えられる。それから、それは、糞が積まれた山のなかに或いはまた不潔な場所のなかに、腐敗し溶解し互いに粘着して涸びるまで、埋められる。それから、それは取出され、日陰で干され、擂潰され、そしてガラスの瓶のなかに入れられる。

それを必要とする場合は、一ハツバの分量がそこから取出され、食物或いは飲物のなかに入れられる。治療を

続けなければ、「この毒をこうむった者の」存命期間は一日である。

薬剤..これはサトーカーと呼ばれている芋虫から採られる。これは多数の足を持つ緑色の芋虫で、菜園のなかの無花果やヒヤール胡瓜やキッサーウ胡瓜や真桑瓜の葉の上にいる。無花果の葉の上にいる最も有毒なものうちから望みのものを採集し、それ等をガラスの瓶のなかに入れ、乾燥させよ。そしてその瓶を糞のなかに埋め、瓶の頭部に栓をし、瓶を二十一日間放置せよ。それから瓶を取り出し、瓶のなかにあるものを十分に乾燥させ、そしてそれを保存せよ。

「望む時に」一ダーニクの重さ「の分量」を取出し、熱いステップのなかに入れよ。それにより、胃の噴門部及び口蓋の疼痛、舌の腫脹、腸の激痛、卒倒、及び激しい炎症が起こる。「この毒をこうむった者の」存命期間は七日である。

この期間よりももつと短い期間を望む場合には、それ等の芋虫を欲しいだけ採集し、それから海葱根の汁を採取し、その汁をそれ等の芋虫の上に注ぎ、芋虫を小さな銅製の容器のなかに入れよ。そしてそれを湿気のある糞のなかに、五日毎に糞を取替ながら、四十夜の間埋め、

それからそれを取出すべし。すると芋虫が黴で覆われているのが認められるし、またこのことが毒物仕上がりの徴なのであるが蜘蛛の巣に似たものが芋虫の上に生じているのが認められる。それからそれを乾燥させ、擂潰し、そして保存せよ。

望む時に一ハツバ「の分量」をそのうちから取出し、熱い食物や望みの飲物のなかにそれを入れよ。「この毒をこうむった者の」存命期間は三日か、或いはそれよりももつと短い。

それに、即ちその「鉛の」容器に、胡麻油を注ぐ時は、胡麻油を二乃至三イスバウ⁽¹⁾その容器に注ぎ、その油のなかで蜥蜴の纖維質がばらばらになるまで、熱い太陽のもとにそれを四十日間吊しておくべし。それからその油がをこうむった者の」存命期間は、治療を続行する場合を除き、一日となる。「治療を続行すれば」、高きにおわす神の思召によりその者は救われるであろう。

その他の薬剤…サラマンドラと呼ばれている蜥蜴、これは黄色いやもりに似た蜥蜴で、その特徴はこの蜥蜴が火のなかに抛り込まれるとそれが火を消すということである。その蜥蜴を捕え、それを鉛の容器のなかに投げ入れよ。そして擂潰されたさぼん草を蜥蜴の上にばら撒き、その頭部、即ちその容器の頭部を塞ぎ、それを糞のなかに、五日毎に糞を取替えながら、四十夜の間埋めよ。すると蜥蜴は纖維質がばらばらになつて腐敗する。それから蜥蜴を取出し、乾燥させ、擂潰し、そしてそれを保存せよ。

望む時に半デイルハムの分量をそのうちから取出し、

熱い食物や冷たい食物或いはまた望みの飲物のなかにそれを入れよ。「この毒をこうむった者の」存命期間は三日か、或いはそれよりももつと短い。

それに、即ちその「鉛の」容器に、胡麻油を注ぐ時は、胡麻油を二乃至三イスバウ⁽¹⁾その容器に注ぎ、その油のなかで蜥蜴の纖維質がばらばらになるまで、熱い太陽のもとにそれを四十日間吊しておくべし。それからその油が保存される。

その油を塗りつけた人は誰でも、毛髪が抜け落ち五日後には全く残存しなくなり、また時として油を塗りつけた箇所が潰瘍になる。

その他の薬剤…これは黒い牡牛の血液から採られる。即ち、羊の腸或いは膀胱が摘出され、それが黒い牡牛の左側の頸静脈「から採取された血液で」満たされる。そしてその先端部が密閉され、十分に日陰で干される。そしてそれが擂潰された後に薬剤が得られる。

望む時に一デイルハムの重さ「の分量」をそのうちから取出すべし。そしてそれは食物或いは飲物或いは果実のなかに入れられる。「この毒をこうむった者の」存命期間は、その者が治療を行わなければ、三〔日〕である。「治療を行えば」、高きにおわす神の思召によりその者は

救われるであらう。

その他の薬剤..狐の血液と牡牛の血液が採取されたならば、両者が等しい量で混ぜ合わされ、鉄製の容器に入れられ、四十日間糞のなかに埋められる。それからそれを取出し、日陰で十分に乾燥させよ。次いでそれは擂潰され、そして保存される。

望む時に一ミスカール「の分量」をそのうちから取出すべし。そしてそれは如何なるものでも望みの食物或いは飲物のなかに入れられる。「この毒をこうむつた者が」治療を行う場合を除き、その者の存命期間は二十日か、或いはそれよりももっと短い。

その他の薬剤..豹の胆嚢が摘出されたならば、日陰で干され、擂潰される。

〔望む時に〕半ミスカール「の分量」がそのうちから取出され、そして食物或いは飲物のなかに入れられる。

〔この毒をこうむつた者が〕治療を行わなければ、その者の存命期間は、その場で終るか、或いは一時間後に終る。

その他の薬剤..駱駝の尾骨に付着している尾の根元が

摘出されたならば、蛆が発生するので陶器の壺のなかに入れられて七日間糞のなかに埋められることにより腐敗

させられる。次いで、それはそのまま乾燥させられ、擂潰され、そして保存される。

望む時に、一ダーニクの重さ「の分量」をそこから取出し、そして食物或いは飲物のなかに投入せよ。「この毒をこうむつた者が」治療を行わなければ、その者はその場で死ぬ。

その他の薬剤..海狸といるのはその毛から織物がつくられる動物なのであるが、その海狸の胆嚢が摘出されたならば、その胆嚢が鉛製の容器のなかに置かれ、容器の頭部が塞がれ、大麦のなかに四十五夜の間埋められる。それからその容器が取出され、糞のなかに四十夜の間置かれる。更にまたそれが取出され、搗き碎かれ、擂潰され、そしてレンズ豆一粒の分量が食物或いは飲物のなかに入れられる。「この毒をこうむつた者は」、七日間の存命期間以内に死ぬ。

その他の薬剤..アワーナ⁽²⁾と呼ばれている爬行虫、及びヒルバー⁽³⁾と言っている蜥蜴から採られる。両者の各々が引きちぎられ、日陰で干され、擂潰され、そして保存される。

〔望む時に〕半ディルハムの重さ「の分量」がそのうちから取出され、食物或いは飲物のなかに入れられる。

「この毒をこうむつた者が治療を行わなければ」、その者「の命」は七日で終る。

その他の薬剤・ヒルバーウと言わわれている蜥蜴の卵を六個採集したならば、それを人間に食べさせる。

治療を行わなければ、その人間は一日で死ぬ。

その他の薬剤・鳥を捕え、その心臓と舌を搗き碎いて摘出したならば、それを人間に、その人間が気付かぬよう食べさせる。その人間は、三十日間水を飲まぬまま過し、遂に死ぬ。

しかしながら、こういうことは、太陽が蟹座に在る時にしか起こらない。

その他の薬剤・目も見えなければ耳も聞こえないフルド⁽⁴⁾と言われている動物「が用いられる」。この動物は役に立つことが多いのであるが、以下述べることはその害に属することである。この動物を毒物にすることを望む

され、食物或いは飲物のなかに入れられたならば、「この毒をこうむつた者は」、まさに同日中に死亡する。もしもそれが衣服に吹きつけられ、そして誰かがその衣服を着用したならば、我々が既に述べたことがそのためにはじむことになる。

その他の薬剤・これは指輪の宝石の下に入れられ、即ならば、この動物を生きたまま捕え、陶製の容器に入れ、その上に胡麻油を注ぎ、そしてその上に粉末にされた犬の糞を振りかけよ。次にその容器の頭部が封をされ、地中に埋められ、二十八日間放置される。それからその容器が取出され、そして開けられる。するとそのなかに一十八匹の蛆が見出される。それ等の蛆と一緒に、

牛の糞と犬の糞を、各々重さ三ウーリヤずつ「容器に」入れよ。直ちにその容器はその頭部に封をされ、糞のかに二十八日間埋められる。それからその容器を開けよ。そのなかに二十八匹の黒い大きな蠅が見出される。もしもその蠅が人間を刺せば、その人は死ぬ。その容器の頭部を塞ぎ、そしてそれを日陰に二十八日間放置せよ。するとそれ等の蠅はすべて死ぬ。そこでそれ等を乾燥させ、擂潰し、そして保存せよ。

二ヶ月間或いはそれ以上の期間そのままにしておかれる。それからそれ等は擂潰され、そして保存される。次に何匹かのインド角蛇が捕えられ、そして殺される。それからその腹が裂かれ、胆囊が引出され、そしてそれ等の胆囊が赤銅製の容器のなかに集められる。次いで、よく擂潰された蛙がその上に投入され、その容器は銅製の蓋で封をされ、そして四十夜の間糞のなかに埋められる。それからそれは取出され、日陰で干され、そして擂潰される。

それを擂潰す者は、二片の綿を取り、それからそれを薔薇の油で湿らせ、それを鼻孔に詰め、そして羊の皮で顔を覆つてしまわなければならぬであろう。

それを擂潰したならば、ガラスの器のなかに入れ、封印を施し、それを保存する。

その一ハツバ「の分量」は一瞬のうちに作用を及ぼす。これは、特に手に入れるのが容易であるという点で、様々なもののうちで最も効力のある毒物でありまた最も激しい毒物である。これは、王達が自らが敵手に落ちることを懸念する時それを用いて自殺するために指輪の下に入れておく毒物である。

薬剤・その毒物から救われる方法は、その人間がカン

ダハスティーと呼ばれる薬剤をエジプト豆一粒の分量ずつ前以て一年間毎日服用しておくことである。何故ならば、高きにおわす神の思召により、そうすることがこの毒物に対する堅固な砦となるからである。

我々はあるゆる毒物のうち食物及び飲物のなかに入れられる様々な毒物についての記述を終えた。

次に、我々は先ず第一にカンダハスティーという薬剤の記述から始めたい。何故ならば、この薬剤は、前に述べたことのすべてから完全に「人を」救い出す救助者となるからであり、また、もしもこの薬剤が用意されれば、それはそれ以外のものを必要にするからである。

それから、我々は、その薬剤のあとで、神の思召により、前に述べた様々な有害な物の害を撃退する有効なその他の様々な薬剤について記述するであろう。

カンダハスティーとして知られている薬剤の特性。これらは王達が指輪のなかに入れておくものと同じような部類のものである。何故ならば、これは、王達のもとで、最も優れた武器の一つとなり、また最も強い兵士の一人となるからである。即ち、その人がそのなかに薬剤が隠してある帶留がついている銀製の腰帯を使用していなけ

れば、またその人がこの薬剤を衣服の端切れで包みそれをドゥッラーア⁽⁶⁾のボタンにしていなければ、その人は人々の王ではないということである。もしも殺される懸念があるならば、その人はこの薬剤を服用する。そうすれば、高きにおわす神の思召により、その人は救われるであろう。

カンダハスティーの成分についての説明。これは次のような成分を含んでいる・トウムマーウ・アル・イトウルと呼ばれる薬剤、インド甘松、アガラック⁽⁷⁾、赤い種類のかやつりぐさ、ハイル——これはしじょうずくである、没薬、サフラス^(?)、ムーハラス^(?)、鉛丹、楓脂香⁽⁸⁾、ユダヤのデリアム樹脂、赤い種類の白檀、えびらはぎ、丁子の皮、甘松、水生キヤベツ、ナーラ^(?)——これはニーフ^(?)である、レモン草、アズファール香⁽¹⁰⁾、にれ、にくづく、サフラン、ダハーミク^(?)、ひづちようか、ファンダティルン^(?)、カシュリーシュと呼ばれる五種類の木——これは柳で、バスマの地を流れるウブツラ河の岸に多く、その根と樹皮と葉と花と実が採取される——、胡椒、唐辛子、生姜、鷄冠石、サンタタムティー^(?)、ラサーヒン^(?)、赤粘土、純種のマムース^(?)——

もしもこれが無ければ、その代りに無花果の葉或いはその皮が一ジユズウ⁽¹¹⁾採取される。それに水二十ジユズウを注ぎ、水が八分の一になるまで沸騰させ、それから唾液を吐きかけ、次いで水を元の分量まで戻し、そしてそれが凝結するまで沸騰させる。搗き碎く代りにこのような事がなされるのである——、キッサーウ胡瓜の外皮の粘性分泌汁、芸香、あぎ、カビト——これはギリシアのレンズ豆である、アムドマトラス^(?)、ラック樹脂⁽¹²⁾、かんぞうの根、〔原文〕欠、〔原文〕語判読不能、蘆薈の〔原文〕語判読不能、菖蒲、ラッハ^(?)、〔原文〕語判読不能^(?)、及び牛の糞。

これ等の各々から一ジユズウが採取される。我々が指名した各々の物が擂潰され、そして個々に絹布で籠にかけられる。それから、すべてのものが集められて一体にされ、そして黄牛と赤牛の胆囊と共に捏ね合わされる。それを捏ねようとする時は、次のような文句を用いてそれに呪文を唱える。「〔呪文の句、判読不能〕」。捏ね終るまでこの文句を繰返して唱える。それから、それをエジプト豆の形のよう粒にし、ガラスの瓶のなかに入れ、その瓶の頭部に栓をして封を施し、そして同様に次のような文句を用いて念を押す。「〔呪文の句、判読不能〕」。

この文句を二十一回唱える。この薬剤は、月が双子座のジラーウ星⁽¹³⁾の位置に在る時、捏ねられる。

この薬剤の利点。一年間休み無しにこの薬剤「を服用すること」に専念した人について言えば、あらゆる有毒の食物及び飲物のうち如何なるものも、如何なる蝮も、一命にかかる有害な様々な種類の蛇のうち如何なるものも、様々な種類の蠍のうち如何なるものも、そして毒を持つた如何なる動物も、その人に害を与えることはできない。神の思召により、この薬剤は、身体及び頭部のあらゆる痛みと、眼炎や「眼の」膿疱や白内障のようないるのあらゆる病氣に有効である。更にこの薬剤は「眼球内に溜つた」不透明な液体を消散させる。またこの薬剤は、慢性の四日熱及びその他の熱病に有効であり、また下痢及びコレラに有効であり、そしてまた身体のなかに既に毒が廻ってしまった人に有効である。

あらゆる有毒物に対して用いられる場合には、もしもその人が熱性で胆汁質であるならば、この薬剤は生のままミルクと一緒に飲まれる。それが疥癬に対して用いられる場合には、疥癬の上に塗りつけられる。激しい頭痛に対して用いられる場合には、二ハツバから半ダーニクまでの間の分量が鼻孔に入れられる。顔面麻痺の者に対

して用いられる場合には、わすれなぐさと呼ばれている草の汁と一緒に、幾らかの分量が三日間鼻孔に入れられる。半身不隨者及び諸器官衰弱者に対して用いられる場合には、幾らかの分量がひめういきょうの汁と一緒に飲まれる。心臓の痛みに対して用いられる場合には、幾らかの分量が丁子の汁と一緒に飲まれる。乳児に対して用いられる場合には、生まれた時、一ハツバの分量が母乳或いは母以外の人の乳と一緒に、悪性の精氣^(ボウマ)から乳児を守るよう、鼻孔に入れられる。また男達と女達は、子宮の痛みがないよう、奥の部分と先の部分にこの薬剤を粘着させる。

この薬剤は、過ぎ去つた昔の諸民族のうちインドの賢人達の創案になる、効用に富む不朽の薬剤なのである。この薬剤は、大ファーリーク・テリアカ⁽¹⁴⁾が役に立つ事態のすべてに対し、役に立つ。

その薬剤（大ファーリーク・テリアカ）が無くなつたあと我々が処方するもののうちに、弱い「毒物」に対しでは一ハツバの、また強い「毒物」に対しては二ハツバの、カンダハスティーの一服がある。何故ならば、高きおわす神の御意に適えば、この薬剤は我々が述べた事柄のすべてについて、神の思召により、役に立つからで

ある。

次に、王達がその場で死ぬ目的で彼等の指輪の宝石の下に入れておくもののうち、他の二つの宝石「の下に入れておくもの」について述べよう。もしも彼等が死に至るであろうほどの事態が彼等を嘆き悲しませる場合には、彼等は敵の手にからずに自らの手で自殺することを選ぶ。彼等は指輪の宝石を引抜き、その内側に入っているものを吸込む。すると彼等はその場で「死に」至る。その一つは、効果の確実な薬草である婆羅門のとりかぶと一デイルハムの重量から得られる。また他の一つは、やもりの脳髄一デイルハムから得られる。

室のなかに居る者すべてが知覚を失うような麻醉剤及び催眠剤について。サーラヒルキヤー（？）、除虫菊、及び阿片が各々一ジュズウ集められる。これ等の薬種を擂潰し、篩にかけ、そして、参会者として部屋のなかに居る者すべてが知覚を失うよう、それを用いて部屋を燻す。もしもそなたが、そなたの身には何事も振りからず、室のなかに居る者すべての知覚を失わせたい場合には、すみれの油を採取し、それをそなたの鼻孔のなかに入れ、十分に吸込むべし。そうすれば、そなたは何も恐れる必要はない。

居合わせて居る人の知覚を失わせる投入型の香料。かきねがらし、阿片、及び芸香の茎が皆各々一ジュズウずつ集められる。これ等の薬種を擂潰し、篩にかけ、そして捏ね合わせる。そして、部屋のなかに居る者すべてが眠るよう、それを用いて部屋を香氣で満たす。

それと同種のもの。新鮮な阿片、芸香の茎、なつしろぎく、及びひよすの根が各々一ジュズウずつ集められる。「これ等を」擂潰し、篩にかけ、そして、居合わせて居る者すべてが知覚を失うよう、それを用いて部屋を香氣で満たす。

同じく「人を」眠らせるもの。ひよすの種子、阿片、ごしあおいの樹脂、及び海狸香が各々半デイルハムの重量ずつ集められ、また蘆薈（ラウカ）と曼陀羅華が各々半デイルハムの重量ずつ集められる。これ等の薬種を擂潰し、篩にかけ、そして布切れに塗込む。もしもそなたが或る人を眠らせたい場合には、薬物が塗込められているその布切れに水を振掛け、そしてそなたが望む人に「それを」嗅がせるべし。すると、その人は即座に眠る。それを解除するには、最高度に酸味のある酢を嗅がせる。すると、その人は蘇る。

て頭と両足に冷水を注ぐ。

たとえその腫脹が水腫症の水から生じたものであらうと、腫脹を和らげる法。カシヤと水仙が各々一ジュズウ採取され、そして熱湯と一緒に飲まれる。

それと同種のもの。すみれの油、酢、及び薔薇水を身体に塗布し、そのあと棗「の葉」で「身体を」こする。

眼炎について。仁が取去られたかじよじゅの実、たかとうだい、及び西洋にんじんぼくが各々一ジュズウずつ集められる。これ等の薬物を擂潰し、そして篩にかけた後、バルサム樹の油と混ぜ合わせ、それからすみれの油と混ぜ合わせる。そしてそなたが望む人の眼にそれを外側から塗りつけよ。すると、その人は眼炎に罹る。

それと同種のもの。かじよじゅの実の果汁、たかとうだい、及びなつしろぎくが各々一ジュズウずつ集められる。これ等の薬物が擂潰され、篩にかけられ、そしてバルサム樹の油を用いて捏ね合わされる。それから、そなたが望む人の眼にそれを外側から塗りつけよ。すると、その人は眼炎に罹る。

それと同種のもの。はんみよう及びたかとうだいが各々一ジュズウずつ集められる。これ等の薬物が擂潰さ

れ、篩にかけられ、そしてクフル墨と混ぜ合わされる。そしてそなたが望む人の眼にそれを塗るべし。すると、その人は眼炎に罹る。

それと同種のもの。オリーブの樹の樹脂が採取される。「それを」インド甘松の油で溶かす。それから、眼にそれを外側から擦込む。すると、その人は、瞼が粘着して、眼を開くことができなくなる。

それと同種のもの。毒蜥蜴が捕えられる。それが殺され、その腹が裂かれ、そしてその内部にあるものが取出され、それが取つて置かれる。それから卵の黄味と黒人の精液が各々一ジュズウずつ採取され、そして湿つた糞のなかで七日間腐敗させられる。次いで、これ等がすべて粉末にされて集められ、クフル墨のなかに投入される。それから、そなたが望む人「の眼」にそれを塗るべし。その人は眼炎に罹る。

それと同種のもの。硫黄一ジュズウ、塩化アンモニウム及びうまのあしがた一ジュズウが集められる。これ等の薬物が擂潰され、篩にかけられ、パレスチナのオリーブ油を用いて捏ね合わされ、そして保存される。必要とされる時に、そなたが望む人の眼にそれを外側から擦込むべし。すると、その人はすぐさま眼炎に罹る。

それと同種のもの。しゅろそ、うが採取される。それが擂潰され、篩にかけられ、水気の多いさ、ぼんそ、うの汁を用いて捏ねられ、そして糞のなかに七日間埋められ、それから取出される。如何なる人でもそれを嗅がされると眼炎に罹る。

それと同種のもの。白さ、ぼんそ、うが擂潰され篩にかけられて重き四分の一デイリハム集められ、そしてクフル墨のなかに投入される。そしてそなたが望む人「の眼」にそれを塗るべし。その人は眼炎に罹る。

失明について。亀の骨が採取される。それが燃やされ、それから燃やしたあとで粉末にされ、そしてクフル墨の容器のなかに貯蔵される。そしてそなたが望む人「の眼」にそれを塗るべし。すると、その人は失明する。

それと同種のもの。亀が捕えられ、殺される。「原文欠」、それから、その風を採取せよ。そしてそれは人間の鼻に入れられる。すると、その人は失明する。

それと同種のもの。亀が捕えられ、浴室の桶のなかに投込まれる。その水で身体を洗つた者は誰でも失明する。

それと同種のもの。驢馬の陰茎が採取される。それが乾燥させられ、そして粉末にされる。重さ一ミスカール

「の分量」の、その一服は、即座に「人を」失明させる。「正氣喪失について。シリアはんみょうとエジプトはんみょうがージュズウ「ずつ」集められる。それ等は擂潰され、篩にかけられ、そして石鹼を用いて捏ね合わされる。重さ一ハツルーバ「の分量」の、その一服は、人の正氣を失わせる。

それと同種のもの。はんみょうが採取される。それ等が擂潰され、アストキューーン（？）の汁を用いて捏ねられ、そして糞のなかに七日間埋められ、それから取出される。重さ半ダーニク「の分量」の、その一服は、「人の正氣を失わせる」。

それと同種のもの。コロシント瓜の果肉とはんみょうが各々一ジユズウずつ集められる。それ等が完全に擂潰され、篩にかけられ、そして貯蔵される。なつめ椰子の実或いは無花果と一緒に服用される、重さ半ダーニク「の分量」の、その一服は、「人の正氣を失わせる」。

それと同種のもの。男達及び女達の正氣喪失。かじょじゅの実、くさのとう、及びとうわたの乳状樹液が各々一ダーニクの重量ずつ集められる。それ等が擂潰され、篩にかけられ、そして西洋夾竹桃の汁を用いて捏ね合わされる。なつめ椰子の実或いは無花果と一緒に服用され

る。総量のうちの半量の、その一服は、「男達及び女達の正気を失わせる」。

それと同種のもの。はんみよ、うが採集される。それが擂潰され、そしてて、ほ、う、うりの汁を用いて捏ねられる。重さ一ダーニク〔の分量〕の、その一服は、「人の正気を失わせる」。

それと同種のもの。はんみよ、う及びたかとうだいが各々一ジュズウずつ集められる。それ等が擂潰され、そして篩にかけられる。一ミスカール半の、その一服は、「人の正気を失わせる」。

正気喪失。ちようせんあさがおが採取される。それが擂潰され、篩にかけられ、そして胡麻油を用いて捏ねられる。女性にそれを飲ませると、その女性は正気を失う。

〔人を〕癩病にすることについて。ワザガや、もりが捕えられる。それが殺され、乾燥させられ、それから粉末にされ、そして篩にかけられる。また、大蜥蜴の脂肪が前記のや、も、りと等しい重量だけ採取される。それ等は卵のなかで混ぜ合わされて一体にされ、そして湿った糞のなかに十日間埋められる。そして、その期間が終了したら、それを取出し、保存せよ。重さ一ダーニク〔の分量〕

の、その一服は、「人を」癩病にする。

それと同種のもの。薄荷、よもぎ、山セロリの種子、ハイファス(?)、及び蝮の脳髄が各々一ジュズウずつ採取される。これ等の乾燥した薬種が擂潰される。そして、それ等のすべてが角のなかに集められ、蛆が湧くまで湿った糞のなかで腐敗させられる。それから、この薬物を取り出し、貯蔵せよ。そなたがこの薬物に効果を發揮させることを必要とする場合には、そなたが望む人の身体にそれをなすりつけばよい。その人は三日後に癩病に冒されるであろう。

それと同種のもの。よもぎ、セロリ、及び薄荷が各々一ジュズウずつ採取される。これ等の薬物が擂潰され、白い蛆がそこから癩病するまで湿った糞のなかで腐敗させられる。それから、それ等の蛆を採集し、それ等を擂潰し、そして貯蔵せよ。そなたがそれに効果を發揮させることを必要とする場合には、そなたが望む人の身体にそれをなすりつけよ。すると、その人は忽ち癩病に冒される。

それと同種のもの。生のままのミルクと薄荷の汁が各々一ジュズウずつ集められる。これ等が容器に入れられ、そしてその容器が封をされる。また、芥子菜の種子

とアンモニアゴムが各々一ジュズウずつ「採取される」。⁽¹⁶⁾
両者が寄せ集められ、擂潰され、「原文欠」。

〔原文欠〕、牛の尿及び蜜と一緒に〔原文欠〕。
ぬるま湯と共に「服用する」、空豆一粒と等量の、その一
服は、人を回復させる。

これは第八番目の薬剤であるが、海狸の胆嚢「の毒」
をこうむつた者の特徴。体内に針でちくちく刺すような
「痛みを」感じ、それから発汗し、そして心臓に痛みを感
じる。もしも治療を行わなければ、その人は死ぬ。

その治療法。吐剤を用いて被害者をして十分に吐瀉せ
しめよ。それから、白い花の香煙及び根の香煙によつて
良く知られているおおういきょうと呼ばれる薬種、かり
りくの芯、栴檀の木の皮、あずまぎくの根、蕪の種子、
ダツラージュ(?)の空色のあやめの根、芹、カンアド
ラーティス(?)、「原文欠」、及びかきどおしが採取さ
れる。各々から一ジュズウが集められ、粉末にされ、篩
にかけられ、そしてとうわたの木の葉の汁及び葡萄の絞
り液の煎じ汁を用いて捏ね合わされる。そして、三日間
毎日それをニミスカールずつ米の漉された研ぎ汁と一緒に
「その人に」飲ませ、胃の上部と心臓に外側からこの
薬物を塗りつけ、またその人に油や酸味のあるものを与

えぬようにする。高きにおわす神の御意に適えば、この
薬物はその人を回復させる。

これは第九番目の薬剤であるが、アワーナと呼ばれて
いる爬行虫「の毒」をこうむつた者の特徴。視界の暗黒
化、激しい頭痛、及び腹痛が顕著となり、そして大出血
が生じる。もしも治療を行わなければ、その人は死ぬ。

その治療法。オリーブ・オイルと熱湯を用いて被害者
をして無理に吐瀉せしめよ。それから、カドムアンスル
と呼ばれるインドの薬種、きんみずひきの汁、硫酸塩、
かんぞうの濃厚にされた汁、バルサム樹の油、胡桃、か
りりくの種子、西洋ふうちょううぼくの樹皮、肉桂、及び
シナモンが各々一ジュズウずつ集められる。それ等が擂
潰され、篩にかけられ、そして白牛の「乳から作った」
バター油及び蜂蜜を用いて捏ね合わされる。そしてそれ
は、何日かの間、毎日、空豆一粒と等量ずつセロリの漉
された汁と一緒に服用され、また心臓の上に塗りつけら
れる。神の思召により、これはその人を回復させる。

これは第十番目の薬剤であるが、黒い鳥「の毒」をこ
うむつた者の特徴。喉と舌が腫上がり、そして呼吸が妨
げられる。もしも治療を行わなければ、その人は死ぬ。

その治療法。海狸香を添えた熱い牛乳と未だ熟してい

ないオリーブの油を用いて被害者をして吐瀉せしめよ。

それから、白胡椒、とうわたの木の内皮、燕の脳髄、葷葱の種子、インド白あかざ、鷺のビータークワーン(?)、ボプラの木の樹脂、にくずく、及び空色のあやめの根が各々一ジュズウズつ集められる。それ等が擂潰され、粉末にされ、篩にかけられ、そして黒牛の尿を用いて捏ね合わされ、次いで牛の「乳から作った」バター油と蜜を用いて捏ね合わされる。そして、何日かの間、それを空豆一粒の分量ずつ熱湯と一緒に「その人に」飲ませ、またそれを胃の上部に塗りつける。これはその人を回復させる。

これは第十一番目の薬剤であるが、ヒルバーウの卵「の毒」をこうむつた者の特徴。「顔」色がサフランの色のように黄色になり、また身体全体に刺すような痛みと疼きを感じる。もしも治療を行わなければ、その人は死ぬ。

その治療法。アミードユースと呼ばれるインドの薬種の根が二ミスカール、「葉の」丸い種類のうまのすずくさと調味料が各々一ミスカール、焼いたざりがにが二ミスカール、没薬とサフランが各々一ミスカール、鶏の糞が一ミスカール、そして野生の蕪の種子が二ミスカール集

められる。それ等が擂潰され、篩にかけられ、そして牛の「乳から作った」バター油と蜜を用いて捏ね合わされる。セロリの汁と一緒に「服用する」、一ミスカール「の分量」の、その一服は、高きにおわす神の御意に適えば、その人を回復させる。

これは第十二番目の薬剤であるが、フルドに属する様々な動物「の毒」をこうむつた者の特徴。身体が腫上がり、激しい苦痛と鬱陶しい熱を伴う多数の潰瘍が身体に発生し、そして意識が失われる。もしも治療を行わなければ、その人は死ぬ。

その治療法。吐瀉を誘発する薬物を用いて被害者をして数回吐瀉せしめよ。次いでバター油が摂取される。それから、野生の芸香の種子と野生の水仙の種子と白い種類のコスター⁽¹⁷⁾が各々一ミスカール、ちゅうせんあさがおと「原文欠」が各々二ミスカール、そしてガゼルの凝乳酵素⁽¹⁸⁾一ミスカールが採取される。擂潰され、そして篩にかけられた後、それ等すべてが一体にされ、そして牛の「乳から作った」バター油と蜂蜜を用いて捏ね合わされる。乾燥した無花果を食べながら、熱湯と一緒に「服用する」、空豆一粒と等量の、その一服は、神の恩召により、その人を回復させる。

我々が述べたそれ等の様々な毒物に対する万能の薬剤の特質。人参の汁が半ラトル、ころはの汁がそれと等重量、きくぢしやの汁がそれと等重量、新鮮な乳漿がそれと等重量、はまびしの汁がそれと等重量、紅花草の葉の汁がそれと等重量、そして西洋ふうちようぼくの樹皮の汁がそれと等重量採集される。これ等の汁は、漉された後、集めて一体にされ、それから、その汁が半分になるほど濃厚になるまで、ゆるやかにとろ火で沸騰させられる。次いで、あぎの樹液と純粹な楓脂香が各々二ミスカール、白いトラガカントゴム⁽¹⁹⁾が一ミスカール半、ミルクとマステイツク樹脂が各々三ミスカール、サフランとにかく、が各々一ミスカール、こえんどろが一ミスカール半、シナモンが一ミスカール半、バルサム樹の油が二ミスカール、胡椒が三ミスカール、にんにくが五ミスカール、ペルシャたちじやこうそ、うが一ミスカール、水生の花、がくさが三ミスカール、酸味のある林檎の花と葉が半ラトル、水生薄荷の葉が二ミスカール、マヨラナの種子が三ミスカール、生姜とげつとうと唐辛子が各々一ミスカール、珊瑚が三ミスカール、芹が一ミスカール、そしてちよせんあさがおが四ミスカール採取される。樹脂類及び幾つかの苦いものを除いて、これ等の乾燥した薬

種の各々は、擂潰され、そして篩にかけられる。樹脂及び苦いものは、酸敗して酢に変じた酒と一緒に、とろ火にかけて溶かされる。それから、以上すべてのものが集められ、純粹な蜜を用いて捏ね合わされ、そして保存される。熱湯と一緒に「服用される」、これ等食べられるものと飲まるものとが総合されたものの「一回の」服用量は三ミスカールである。また胃の上部と心臓にこれを塗りつける。またこれは、高きにおわす神の思召により、動物が咬んだり或いは刺したりすることからこうむるあらゆる毒に対する治療薬となるのである。

高きにおわす神の思召により、我々はあらゆる食物及び飲物のうち毒入りのもの「の害」の治療法についての記述を終えた。

〔既に身体に〕毒が廻ってしまった場合に関しては、その治療法はカンダハスティーとして知られている薬剤を服用することであると、我々は既に御伝えした。また我々は、前に、その特質についても記述を行つた。

第二章終了。

註

(1) 長さの単位。一イスバウは指一本の幅の長さ。約2cm。

- (2) 砂地に棲息する爬行虫。
- (3) カメレオンの一種である。
- (4) 砂漠に棲息するムグウの一種。
- (5) ヒの動物の上唇は四日熱の治療に効果があるとされ、また脳は癩病、疱瘡性発疹、疥癬、瘰癧、皮膚癰疽症の治療に効果があるとされていた。
- (6) 一列のボタンで飾られた一種のシャツ。
- (7) インド産の香木。
- (8) *ferula galbaniflua* (薊科おおとうふあらわう属の植物) の樹脂。
- (9) *balsamodendron africanum* (ベルサム樹の一種) の樹脂。
- (10) アズファール *azfār* はアラビア語でズフル *zufur* (瓦) の複数。根元から引抜かれた人間の爪に似た形をした黒色の芳香物質。香料。
- (11) 薬剤の調合に用いられる種々の原料の所要量を数量的に表示するために、それ等の物質としての存在形態や形状如何にかかわらず、それ等をそれぞれの固有の基準に基づいて一単位としたものを「ジュズウ」と呼ぶ。
- (12) 木の枝に寄生する昆虫、ラック貝殻虫が分泌する樹脂状物質。
- (13) 双子座の頭のα星とβ星。月の宿の一つとされていた。
- (14) 最良種のテリアカ。

さて、香料やグリースや洗身用水や衣類やその他ものもののうち毒入りのものについて述べるとしよう。
我々が御伝えそして叙述を行つたそれ等の品々に入れられる様々な毒物についての説明。

〔薬剤〕：セロリの根が採取される。それが粉末にされ、そして十分に篩にかけられる。次いで、アル・マウダニー（？）の野生のいらくさが採取される。それが擂潰され、絞られ、その汁が採取され、そして先程のセロリがその汁を用いて捏ねられる。それから、それは乾燥せられ、粉末にされ、そしてその幾らかの分量が、我々が述べたようなグリース或いは香料のなかに入れられるのである。

第三章

その治療法。兎の凝乳酵素が採取され、いぬごまの油と混ぜ合わされる。それから、頭と顔が生のままのミルクで洗われ、次いで水で洗われ、そしてその薬物が塗布される。高きにおわす神の思召により、「それは」その人を回復させる。

その他の薬剤、アーティフシーケーンと呼ばれる薬種が採取される。それはインドには少なく、西欧人の地及びブジヤ族の(1)地に多い。その薬種が採取され、擂潰され、硫黄を用いて捏ねられ、そして鉛製の容器のなかに入れられる。そして、それは糞のなかに、五日間毎に糞を取替えながら、四十日間埋められる。それから、それは取出され、乾燥させられ、そして粉末にされる。そこから一ハツバの重さ「の分量」を取出し、そして香料或いはグリース或いは洗身用水或いは塗りつけるもののなかに入れたならば、ひどい災難が生じるであろう。もしも治療を行わなければ、肉が次々と「剥げ」落ちる。

その治療法。松の実と、うごまの実が採取される。それ等は燃やされ、そしてそれ等の灰からミスカールが採取される。その灰が擂潰され、いぬごまの油二ウーキーと混ぜ合わされ、そしてそのなかに樟腦が半ミスカール投入される。それから、頭と顔と身体にそれが塗布

される。高きにおわす神の御意に適えば、それはその人と回復させる。

その他の薬剤、インドの地全土に産し、また北アフリカの人々の地に産する、トフシーケーンと呼ばれる薬種が採取される。北アフリカの人々は、戦闘の際、これを用いて彼等の武器に毒を塗る。汁の多いこの薬種が採取され、また足の長い蜘蛛——これは「しがみつき」と呼ばれている蜘蛛なのであるが——が採集されたならば、それ等は完全に搗き碎かれ、そして、内側にピッチが塗りつけられて湿気のある腐敗した場所に埋められた陶製の容器のなかに、薬物が徽びて腐敗するまで入れられる。それから、それは取出され、乾燥させられ、粉末にされ、そして保存される。もしも、その幾らかの分量が、我々が記述したような香料或いは衣類或いはその他の物品のうち、何れかの物のなかに入れられたならば、我々が述べた事態、即ち肉が「剥げ」落ちるということ、が生じるであろう。もしも治療を行わなければ、その人は死ぬ。

その治療法。先ず最初にカンダハスティーの一服を服用し、各種の芳香植物や寒性の香味料がそのなかで煮つめられた水で以て両手を洗い、それから、きくぢしゃの汁と羊の乳と薔薇の油を用いて捏ね合わされた、白い種

類の白檀と樟脳を、数日間、塗りつける。それはその人を回復させる。

その他の薬剤・婆羅門のとりかぶとと言われている薬種が、それが若い時に、採取され、また若いちようせんあさがおが採取される。それ等が搗潰され、そして絞られ、乾燥させられ、粉末にされ、そして保存される。もしも、その幾らかの分量を、我々が述べたもののうち、何れかの物のなかに入れたならば、それは身体に膿疱を生ぜしめ、そして身体「の肉」をすたずたにする。もしも治療を行わなければ、その人は死ぬ。

その治療法。黒犬の凝乳酵素が一ミスカール採取される。また、水仙の球根の汁が採取される。水仙の球根が絞られ、そしてその汁が二ウーキーヤ採取されるのである。それから、凝乳酵素がその汁のなかで溶解され、そのなかに子羊の肺臓の脂肪質一ミスカールの重さ「の分量」と樟脳一ミスカールの重さ「の分量」が搗き碎かれ投入され、そして樟脳が混ぜられている薔薇の油四分の一ラトルがその上に注がれる。「膿泡で傷ついた」箇所がういきょうの汁で洗われ、そして我々が述べたその薬物が塗りつけられる。神の思召により、それはその人を回復させる。

その他の薬剤・太った三才の羊の肉が採取される。蛆が蛆で一杯になるまで、それが糞のなかに埋められる。それで一杯になるまで、それが糞のなかに埋められる。それ頭の黒い蛆を残らず採集し、それ等を悉く瓶のなかに集め、瓶の頭部に栓を施し、そしてそれ等の蛆が涸びるまで、その瓶を料理用のかまどのなかに放置せよ。次いで、やもり「が捕えられる」。それから、それを引裂き、そして、それが乾燥して萎びるまで、四十夜の間、煙がそれに達するよう、料理用のかまどのなかにそれを吊すべし。それから、それを先程の薬物と一緒に粉末にし、そして保存せよ。もしも、その幾らかの分量が、我々が述べたもののうち、何れかの物のなかに入れられたならば、それは身体に膿疱を生ぜしめる。もしも治療を行わなければ、その人は死ぬ。

その治療法。いわんげの花、コスタス、没薬、アズファール香、ガゼルの胆囊、及びエジプト梅の果肉が各々一ジュズウズつ採取される。すべてのものが搗き碎かれ、それ等のものと一緒にちょうどそれ等のものの半分の量だけ白檀と樟脳が用意され、これ等一切のものがわさびの木「の種子の油」と混ぜ合わされ、そして幾滴かの薔薇の油がその上にたらされる。それから、寒性の香

味料「がそのなかで煮つめられた」水で以て「膿疱で傷ついた」箇所が洗われ、そしてその塗布剤が塗りつけられる。高きにおわす神の思召により、それはその人を回復させる。

その他の薬剤・蛙と呼ばれている動物がいるが、そなたの手で決して蛙には触れないで、鉄製の火箸を用いて蛙を捕える。それから、鉛製の容器のなかに蛙を投入し、それと一緒にコスタスとオリーブ油を入れ、そして、四十夜の間、それを糞のなかに埋めよ。それから、ゆるやかに煮つめるために羊の糞「を燃やした」火で、蛙の纖維質がばらばらになるまで、その「有効成分」を煎じ出し、そしてその「有効成分」がその容器のなかに溜るようにせよ。そこから一ハッバ「の分量」が取出され、我々が述べたもののうち何れかの物のなかに入れられたならば、身体に膿疱が生じ、そして肉が次々と「剥げ」落ちる。もしも治療を行わなければ、その人は死ぬ。

その治療法。隼の砂囊が採取される。それが薄片に切り分けられ、そして日陰で乾燥させられる。次いで、鶏の糞が三ミスカール、樟脳が三ミスカール、白檀が半ラトル、そしてカンダハスティー剤が一ミスカール採取される。それ等すべてのものが寄せ集められ、そして水に

浸して柔らかにされて炊かれた白米の汁（重湯）で以て溶かされる。先ず最初に、「膿疱で傷ついた箇所が」、様々な香味料や芳香植物「がそのなかで煮つめられた」水で洗われ、次いで、我々が述べた薬物が数回塗りつけられる。高きにおわす神の思召により、それはその人を回復させる。

その他の薬剤・サートと言われている木が採取され、そしてその汁が絞られる。次いで、イルカと言われている別の木が採取される。それが搗き碎かれ、そしてその汁が絞られる。それから、ハルバートと呼ばれている別の木「が採取される」。この木は、とうわたの乳状樹液に似た沢山の乳状樹液を含んでおり、またその葉はぎんばいかの葉に似ている。もしもそなたの手でその木に触れてみると、そなたの手は、ちょうど蜜「に触れた」状態のように、その木に粘着する。最初の一一つの木の汁を集め、そして、それが膠状になるまで、それを火に掛ける。それから、ハルバートの木の乳状樹液が、最初の一一つの木の汁のうち一方の木の汁の重さ「の分量」と等しい分量だけ、その上に投入される。その後、その乳状樹液を「前記の」膠状物質と、それ等が一体になるまで、混ぜ合わせる。それから、それは水牛の角、或いは牛の角

のなかに入れられる。それから、角の頭部に栓を施し、そしてそれを保存する。その幾らかの分量が、香料、或いは洗身用水、或いは塗布剤、或いはクフル墨のなかに入れられると、治療を行わなければ「それ等を用いた」人は死ぬ。またこの薬物について言えば、矢がこれを用いて有毒化されるのである。即ち、矢が「手に」取られ、銳くされ、そしてその尖端にこの薬物が少量塗布される。もしもこの塗薬「を塗られた矢」が皮膚を撫でると、その人は立所に死ぬ。

その治療法。酸敗して酢に変じた油が一ウーキーヤ、薔薇の油が一ウーキーヤ、おおばこ草と言われている草の葉の汁と二十日大根の葉の汁が各々一ウーキーヤ、うすべにたちあおいの木の根が半ラトル、亀の脂肪が半ラトル、白檀が一ウーキーヤ、樟脳が一ウーキーヤ、そして大麦粉が以上すべてのものと等しい〔重量〕だけ集められる。そして、これ等すべてのものが、様々な香味料「がそのなかで煮つめられた」水を用いて、一体にされる。「傷ついた」箇所が、事前に、わさびの木「の種子の油」と熱湯と薔薇の油で洗われ、次いでその薬物が数回塗りつけられる。高きにおわす神の御意に適えば、それはその人を回復させる。

その他の薬剤、一才の子羊の肺臓がまるごと採取される。次いで何匹かの蝮がそのまま（無傷で生きたまま）捕えられる。それから、それ等の蝮にその肺臓を何度も何度も咬ませよ。それから、その肺臓を乾燥させ、粉末にし、そして保存する。もしもそこから幾らかの分量が取出され、そしてそれが、我々が述べたもののうち、何れかの物のなかに入れられたならば、それは身体に膿疱を生ぜしめる。もしも治療を行わなければ、体内に汚ないものが滞留し、その人は死ぬ。

その治療法。ラーアイビー鳩の糞⁽²⁾と白い種類のコスタスが各々一ジュズウ、スター⁽³⁾ヒースが一ジュズウ、純粹な湧出石油が一ジュズウ半、あぎの樹液が半ジュズウ、糞石⁽⁴⁾が二ジュズウ、樟脳が一ジュズウ、そして白い種類の白檀が以上すべてのものと等しい〔重量〕だけ採取される。これ等すべてのものが寄せ集められ、牛の胆嚢とぎんばいいかの花の汁を用いて捏ね合わされる。そして、それが身体に何度も何度も塗りつけられる。神の恩召により、それはその人を回復させる。

その他の薬剤、これは即効性の毒物に属しているのであるが、インド産のイマーシーン（？）の木の根が採取される。次いで、はんみょうが採集され、そして乾燥さ

せられる。また、最初「の木の根」が粉末にされる。それから、両者が等しい量で均等に混ぜ合わされ、そして保存される。もしも幾らかの分量が顔面用塗布剤や皮膚用塗布剤や脱毛剤のなかに投入されると、治療を続行しなければ「それ等を用いた」人は死ぬ。

その治療法。アストウーブーシャー（？）と言われている薬種が三ミスカール、サフランが一ミスカール、生姜が半ミスカール、乳香が一ミスカール、わすれなぐさの種子と穿孔することができない小粒の真珠が各々二ミスカール、樟腦が一ミスカール、そして白檀が以上すべてのものと等しい〔重量〕だけ採取される。これ等すべてのものがあざまぎくの汁と薔薇の油を用いて一体にされ、そして、「傷ついた」箇所が生のままのミルクと熱湯と薔薇の油で洗われた後、「その薬物が」何度も何度も塗りつけられる。神の思召により、それはその人を回復させる。

その他の薬剤・角〔と呼ばれている植物〕が採取される。これはとりかぶと属〔の植物〕である。そして、茎には、インド甘松に見られるような突起がある。その突起には、銀粉や滑石粉に似た斑点が付いている。それから、「鼠の棘」と呼ばれている草が採取される。これは野

生のひるがおで、サフランの花に似た、すみれ色をした花をつけている。これが乾燥させられる。そしてそこから一ジュズウが採られる。また、角〔と呼ばれている植物〕から一ジュズウが粉末にされて採られる。そして両者が保存される。もしもそこから幾らかの分量が我々が述べたもののなかに入れられたならば、破滅と瀕死の状態が生じる。もしも治療を続行しなければ、その人は死ぬ。

その治療法。〔原文欠〕が半ミスカール、鶴^{はしたか}と子山羊の胆囊が一ミスカール、そして樟腦が一ミスカール〔採取される〕。すべてのものが寄せ集められ、さんしきひるがおの汁を用いて捏ね合わされ、そしてそれが眼瞼の縁に塗布される。もしもそなたが「その薬物を」身体に塗布することを望むならば、白檀が二ウーキーヤと薔薇の油が二ウーキーヤそのなかに加えられ、そしてすべてのものがきくじしやとさんしきひるがおの汁と混ぜ合わされ、それからそれが身体に塗布されるのである。神の思召により、それはその人を回復させる。

賢人シャーナーク曰く。そして、インドの先覚者達は、この書物がその部門に於いて唯一のものであるので、この書物を「比類無きもの」と呼んでいた。

アル・アツバース・ブン・サイード・アル・ジャウハ

リード曰く。アル・マアムーンは次のように述べた。「この書物から有毒の少女についての記述を削除すべきである。何故ならば、それはインドの無知無明時代の所業だからである。そのようなことは我々には必要ない。何故ならば、一人の乳児が危険から免れるようになるのに先立つて、千人の乳児がその過程で死ぬであろうからである。それ故、この書物からその記述を削除せよ。そして、この書物を手にした者をして、神を畏怖せしめ、この書物の秘密を守らしめ、そしてこの書物のなかに記されている何れかの物によつて災難をこうむつた人をこの書物を用いて治療せしめよ。そうすれば、この書物を手にした者に対する神からの報いは多大なものとなろう。至高にして偉大な神のうちにしか権能も力も存在しないのである」。

神の御恩寵と御助力と優れた御導きによつて、賢人シヤーナークの書は完了した。

神が我等の長なるムハンマドとその御一族並びに御系統を祝福されることを。神が最後の審判の日までそれ等の方々に大いに救いを授けられんことを。アーメン！

註

(1) 現在のスーザン北部のナイル河中流域を指すものと思われる。

(2) 野生の鳩の一一種で鳴声が大きい。

(3) いぬごまに似た小灌木。山地及び小石の多い地に自生する。

(4) 山羊、牛等の腸内にある結石。